

# 老人の交友関係について

—老人福祉会館の来館者への面接調査—

梶 田 正 巳 杉 江 修 治<sup>1)</sup>

## 問 題

近年、高齢者問題の重要性はますます繁く指摘されるようになってきている。高齢者に関連した実証的研究も数多くすすめられるようになり、報告書も増えてきている。しかしながら、多くの研究は未だ高齢者問題検討の端緒から大きく内に踏み込んではいえない。たとえば老人に関する調査的研究では、その多くが一般的、表面的内容にとどまっている。問題領域で十分に焦点を絞った分析的研究の必要性を先ず指摘したい。

また、高齢者については、1979年で65歳以上の老人の全人口に占める比率は8.7%、1987年で推計10.16%にのぼる(総理府 1979)といわれ、“高齢化社会”と関連した社会的問題への対応に関心が集中し、全般的に対症療法的な情報収集のための研究という色合いが強い。しかし、北村・西野(1980)も指摘するごとく、社会に生きる生活者としての老人を総合的に研究するとともに、人生の先輩である熟成された経験の持ち主として老人を積極的に捉える研究も必要であるといえよう。

本研究では領域を老人の交友関係の側面に絞って、多面的な資料を収集し、分析・検討することを目的とする。老人期における交友関係は老人にとって重要な意義を持つものと推測される。老人ホームにおけるグループワークの重要性が認識され、実践に移されているという事実(浅野 1981)や、老人クラブ活動の近年の隆盛といった諸現象からもそれはうかがえるが、さらに本調査の結果がそれを明らかに示すであろう。

ここでの老人の交友関係への関心は、老人の過去の交友歴とともに、現代の若者の交友関係に対する彼らの見方をも含んでいる。これらの資料は、発達の視点から見た人間の交友関係の示唆的資料となるであろう。またさらに、戦争、敗戦、復興と変遷著しい時代をすごした人たちの生活の過程を、交友関係に限ってではあるが、うかがい知るための資料となるであろう。

この面接調査は、名古屋大学教育心理学教室における教育心理学実験演習 I (調査)の授業の一環として実施されたものであり、被面接者は名古屋市立老人福祉会館に来館する、主に在宅老人からなる。

## 方 法

### 1 被調査者

被調査者は名古屋市立の3つの老人福祉会館に来館した老人を対象とした。各福祉会館別の被調査者数を表1に、年齢別構成を表2に示した。

表1 被調査者(老人)の数

|          | 男  | 女  | 計   |
|----------|----|----|-----|
| 八事老人福祉会館 | 25 | 27 | 52  |
| 前津老人福祉会館 | 24 | 26 | 50  |
| 熱田老人福祉会館 | 43 | 32 | 75  |
| 計        | 92 | 85 | 177 |

表2 被調査者の年齢

|        | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|--------|----------|----------|----------|
| 60~64歳 | 4(4.3)   | 5(5.9)   | 9(5.1)   |
| 65~69  | 15(16.3) | 17(20.0) | 32(18.1) |
| 70~74  | 22(23.9) | 29(34.1) | 51(28.8) |
| 75~79  | 23(25.0) | 22(25.9) | 45(25.4) |
| 80~84  | 22(23.9) | 10(11.8) | 32(18.1) |
| 85~89  | 5(5.4)   | 1(1.2)   | 6(3.4)   |
| 90~94  | 1(1.1)   | 1(1.2)   | 2(1.1)   |

( )内%

### 2 調査内容

以下の内容について調査を行った。具体的質問項目は論文末に資料として付したので参照されたい。

#### (1) 生活実態的側面

- ①同居の家族数
- ②現在の仕事の有無と内容
- ③職歴

1) 中京大学教養部助教授

- ④退職後の年数
- ⑤学歴
- ⑥兵役経験の有無とその期間
- ⑦居住地（区名）と居住期間
- ⑧現住地の交通の便
- ⑨友人との交際に要する費用
- (2) 現在の交友関係の実態
  - ①現在の友人の有無とその人数
  - ②友人のタイプ
  - ③最も親しい友人のタイプと人数, 年齢
  - ④最も親しい友人との居住地の距離
  - ⑤最も親しい友人との交際内容
  - ⑥最も親しい友人と会う頻度, 交際期間
  - ⑦最も親しい友人との交際の契機
- (3) 10代, 20~30代, 40~50代各年代での交友関係
  - ①友人のタイプ
  - ②友人の人数, 年齢
  - ③友人の居住地との距離
  - ④友人との交際内容
  - ⑤友人と会う頻度
  - ⑥過去の友人との現在のつき合い
  - ⑦付き合いの変化の契機
- (4) 交友関係への満足度
  - ①過去の交友関係への満足度とその理由
  - ②現在の交友関係への満足度とその理由
  - ③今後の交友関係への期待
- (5) 友人関係の意味
  - ①老人にとっての友人の意味
  - ②人生における友人の意味
  - ③若者の交友関係についての意見

### 3 調査手続き

調査者（学生）が各老人福祉会館に出向き、面接による調査を行なう。教養講座の休憩時間、囲碁、将棋、卓球などの観戦時に許可を得て面接する。調査者は名古屋大学教育学部教育心理学科学生である。調査に要した時間は40分～1時間。面接者の印象では、どの被調査者（老人）も非常に積極的に交友関係を語られたようである。

### 4 調査期日

1980年2月18日～2月23日。午前9時から午後4時30分までの間に実施。

## 結果と考察

### 1 被調査者の生活実態

被調査者の生活実態についてまず分析する。ここでの結果は老人の生活実態に関する資料となるのに加え、今回の被調査者の特徴を予め明確にしておくという意味をもつ。

#### (1) 被調査者の家族構成

表3には被調査者の現在の家族構成をまとめた。構成のタイプ別では「家族（血縁者）との同居」が68.9%と最も多い。これらは主に子どもとの同居が中心である。「老夫婦」のみ（15.8%）、「単身者」（14.7%）も一定数ある。ただし、前者は男子に多く後者は女子に多い。

1978年の愛知県高齢者実態調査では、「家族（血縁者）との同居」は74.0%、「老夫婦」のみは16.0%、「単身者」は6.1%であった（中日新聞 1978, 12.8朝刊）。今回の被調査者は家族との同居がやや少なく、ひとり暮らしがやや多い。

#### (2) 被調査者の職業の有無とその内容ならびに職歴

表3 被調査者の家族構成

|            | 男 (100%)  | 女 (100%)  | 計 (100%)   |
|------------|-----------|-----------|------------|
| 家族（血縁者）と同居 | 64 (69.6) | 58 (68.2) | 122 (68.9) |
| 老夫婦        | 22 (23.9) | 6 (7.1)   | 28 (15.8)  |
| 単身者        | 5 (5.4)   | 21 (24.7) | 26 (14.7)  |
| 老人ホーム      | 1 (1.1)   | 0 (0.0)   | 1 (0.6)    |

( ) 内%

表4 被調査者の職業の有無

|     | 男 (100%)  | 女 (100%)  | 計 (100%)   |
|-----|-----------|-----------|------------|
| 有   | 12 (13.0) | 4 (4.7)   | 16 (9.0)   |
| 無   | 80 (87.0) | 80 (94.1) | 160 (90.4) |
| 無回答 | 0 (0.0)   | 1 (1.2)   | 1 (0.6)    |

( ) 内%

表5 職業を有する被調査者の職業

|             | 男 (100%) | 女 (100%) | 計 (100%) |
|-------------|----------|----------|----------|
| 農 林 水 産 業   | 0 ( 0.0) | 1 (25.0) | 1 ( 6.3) |
| 自 営 の 商 工 業 | 4 (33.3) | 1 (25.0) | 5 (31.3) |
| 事務系の勤め人     | 0 ( 0.0) | 0 ( 0.0) | 0 ( 0.0) |
| 作業系の勤め人     | 3 (25.0) | 0 ( 0.0) | 3 (18.8) |
| 専門職・自由業     | 3 (25.0) | 1 (25.0) | 4 (25.0) |
| 管 理 職       | 0 ( 0.0) | 0 ( 0.0) | 0 ( 0.0) |
| そ の 他       | 2 (16.7) | 1 (25.0) | 3 (18.8) |

( ) 内%

表6 被調査者の主な職歴

|             | 男 (100%)  | 女 (100%)  | 計 (100%)  |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 農 林 水 産 業   | 3 ( 3.3)  | 3 ( 3.5)  | 6 ( 3.4)  |
| 自 営 の 商 工 業 | 21 (22.8) | 17 (20.0) | 38 (21.5) |
| 事務系の勤め人     | 14 (15.2) | 6 ( 7.1)  | 20 (11.3) |
| 作業系の勤め人     | 29 (31.5) | 14 (16.5) | 43 (24.3) |
| 専門職・自由業     | 18 (19.6) | 9 (10.6)  | 27 (15.3) |
| 管 理 職       | 5 ( 5.4)  | 1 ( 1.2)  | 6 ( 3.4)  |
| そ の 他       | 2 ( 2.2)  | 4 ( 4.7)  | 6 ( 3.4)  |
| 職 業 な し     | 0 ( 0.0)  | 31 (36.5) | 31 (17.5) |

( ) 内%

被調査者が現在職業をもっているか否かについては、表4にその結果を示す。被調査者の約9割は現在では職業をもっていない。ただし、男女別にみると、やや男子に有職者が多い。高齢者が多いため、有職者の割合は小さい。内閣総理大臣官房老人対策室編「老人の生活と意識（1982）」（以下「老人の生活と意識調査」と略）での被調査者の場合、男子57.2%、女子22.3%、平均39.2%が就労者であるという結果に比べても、今回対象となった本調査での有職者の割合は小さいものである。

表5には有職者の職業内容をまとめた。男子12名、女子4名の内訳であるため、傾向は明らかではない。ただ、「事務系の勤め人」、「管理職」への回答は1ケースもみられなかった。

被調査者の職歴については表6にまとめた。最も多いのは「作業系の勤め人」（24.3%）で全体のほぼ1/4を占めた。次いで「自営の商工業」（21.5%）があげられた。都市部での調査ということもあり、「農林水産業」（3.4%）という、第一次産業従事者は少ない。なお、女子は男子に比べ「職業なし」（36.5%）、即ち職歴をもたないと報告した者の割合が大きい。

被調査者が退職してから何年が経過をしたかを、無職と回答した者に質問した結果を表7に示す。全体に退職後「1～5年」（28.8%）への回答が最も多い。退職10

表7 被調査者の退職以後の経過年数

|       | 男 (100%)  | 女 (100%)  | 計 (100%)  |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 1～5年  | 33 (41.3) | 13 (16.3) | 46 (28.8) |
| 6～10  | 13 (16.3) | 12 (15.0) | 25 (15.6) |
| 11～15 | 12 (15.0) | 6 ( 7.5)  | 18 (11.3) |
| 16～20 | 5 ( 6.3)  | 5 ( 6.3)  | 10 ( 6.3) |
| 21～25 | 4 ( 5.0)  | 3 ( 3.8)  | 7 ( 4.4)  |
| 26～30 | 4 ( 5.0)  | 2 ( 2.5)  | 6 ( 3.8)  |
| 31～35 | 8 (10.0)  | 4 ( 5.0)  | 12 ( 7.5) |
| 36～   | 0 ( 0.0)  | 6 ( 7.5)  | 6 ( 3.8)  |
| 無回答   | 1 ( 1.3)  | 29 (36.3) | 30 (18.8) |

( ) 内%

年以内は44.4%、15年以内は55.7%と、女性の「無回答」（36.3%）を除くと多くの被調査者がこの年限内の回答をしているといえるであろう。なお、女子は職業経験のある者が49名であるにもかかわらず（表6より）、この質問に51名が回答している点をデータの問題点として一応指摘しておきたい。ただし2名の違いで全体の傾向を大きく変えるとは思われない。

## (3) 被調査者の学歴

表8には被調査者の学歴をまとめた。全体に「小学校」（40.7%）という回答の割合が最も大きい。次いで「高

老人の交友関係について

表8 被調査者の学歴

|                   | 男 (100%)  | 女 (100%)  | 計 (100%)  |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 小学校               | 45 (48.9) | 27 (31.8) | 72 (40.7) |
| 高等小学校             | 12 (13.0) | 33 (38.8) | 45 (25.4) |
| 旧制中学校・商工業学校・高等女学校 | 17 (18.5) | 17 (20.0) | 34 (19.2) |
| 大学・旧制高等学校・専門学校    | 12 (13.0) | 3 (3.5)   | 15 (8.5)  |
| その他               | 3 (3.3)   | 1 (1.2)   | 4 (2.3)   |
| 無回答               | 3 (3.3)   | 4 (4.7)   | 7 (4.0)   |

( ) 内%

等小学校」(25.4%)への回答が多い。「老人の生活と意識調査」(1981)のサンプルでは、「尋常小学校・高等小学校卒」が67.6%と本調査に類似している。中等教育については、本調査が19.2%、「老人の生活と意識調査」が22.9%とやや差がある。高等教育は前者が8.5%、後者が7.8%と似通っている。女子は高等小学校の学歴を男子に比べて多くもっているが、高等教育では男子の方が多い。

(4) 被調査者の兵役経験

表9には男子に限って兵役経験を質問した結果を示し

表9 被調査者の兵役経験の有無と期間

|        | 期 間  | 人 数       |
|--------|------|-----------|
| 兵役経験あり | 1年未満 | 4         |
|        | 2年   | 8         |
|        | 3年   | 10        |
|        | 4年   | 4         |
|        | 5年   | 5         |
|        | 6年以上 | 6         |
|        | 無回答  | 2         |
|        | 計    | 39 (42.4) |
| 兵役経験なし |      | 53 (57.6) |

( ) 内%

た。「兵役経験あり」が42.4%、「兵役経験なし」が57.6%であった。ただし兵役経験が出征の経験と混同され、実際よりは「あり」とする回答が少ないおそれはある。期間については「2年」、「3年」という所が多いものであった。

(5) 被調査者の居住地

表10には被調査者の居住地を、調査場所別に名古屋市の区単位で示した。各福祉会館ともにその所在地の居住者が50%を越えている。一方所在地以外の遠距離からかよう例も少なからず認められる(八事福祉会館における北区、緑区、南区の来館者、前津老人福祉会館における北区、緑区、名東区、守山区の来館者、熱田老人福祉会館における北区、守山区の来館者など)。

各被調査者が現住所に住んでいる期間については表11に示した。「1~10年間」を起点に10年きざみでの質問では、各期間にはほぼ均等に回答が分れた。老人の場合でも必ずしも同一地域に長年留まる者ばかりではないことがうかがえよう。扶養者の転居と関係が深いと思われる。

表12にはその居住地の交通の便について質問した結果を示す。ここでは圧倒的に「良い」とする回答が多い。交通の便の良い所にある福祉会館の近所に居住する老人が多いことが一因であろう。また、交通の便が良いから

表10 被調査者の居住地区

|     | 八事老人福祉会館* |          |          | 前津老人福祉会館** |          |          | 熱田老人福祉会館*** |          |          | 合 計      |          |          |
|-----|-----------|----------|----------|------------|----------|----------|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
|     | 男         | 女        | 計        | 男          | 女        | 計        | 男           | 女        | 計        | 男        | 女        | 計        |
| 熱田区 |           |          |          | 1(4.2)     | 1(3.8)   | 2(4.0)   | 24(55.8)    | 18(56.3) | 42(56.0) | 25(27.2) | 19(22.4) | 44(24.9) |
| 北 区 | 1(4.0)    |          | 1(1.9)   | 1(4.2)     | 1(3.8)   | 2(4.0)   |             | 1(3.1)   | 1(1.3)   | 2(2.2)   | 2(2.4)   | 4(2.3)   |
| 昭和区 | 12(48.0)  | 16(59.3) | 28(53.8) | 4(16.7)    | 6(23.1)  | 10(20.0) |             | 1(3.1)   | 1(1.3)   | 16(17.4) | 23(27.1) | 39(22.0) |
| 千種区 | 1(4.0)    | 5(18.5)  | 6(11.5)  |            |          |          |             |          |          | 1(1.1)   | 5(5.9)   | 6(3.4)   |
| 天白区 | 5(20.0)   | 4(14.8)  | 9(17.3)  |            |          |          |             |          |          | 5(5.4)   | 4(4.7)   | 9(5.1)   |
| 中 区 | 1(4.0)    | 1(3.7)   | 2(3.8)   | 14(58.3)   | 14(53.8) | 28(56.0) | 1(2.3)      |          | 1(1.3)   | 16(17.4) | 15(17.6) | 31(17.5) |
| 中川区 |           |          |          |            |          |          | 6(14.0)     |          | 11(14.7) | 6(6.5)   | 5(5.9)   | 11(6.2)  |
| 中村区 |           |          |          | 1(4.2)     |          | 1(2.0)   |             | 1(3.1)   | 1(1.3)   | 1(1.1)   | 1(1.2)   | 2(1.1)   |
| 緑 区 | 1(4.0)    |          | 1(1.9)   |            | 1(3.8)   | 1(2.0)   | 1(2.3)      |          | 1(1.3)   | 2(2.2)   | 1(1.2)   | 3(1.7)   |
| 瑞穂区 | 3(12.0)   | 1(3.7)   | 4(7.7)   | 1(4.2)     | 1(3.8)   | 2(4.0)   |             |          |          | 4(4.3)   | 2(2.4)   | 6(3.4)   |
| 港 区 |           |          |          |            |          |          | 9(20.9)     | 3(9.4)   | 12(16.0) | 9(9.8)   | 3(3.5)   | 12(6.8)  |
| 南 区 | 1(4.0)    |          | 1(1.9)   | 2(8.3)     |          | 2(4.0)   | 1(2.3)      | 3(9.4)   | 4(5.3)   | 4(4.3)   | 3(3.5)   | 7(4.0)   |
| 名東区 |           |          |          |            | 1(3.8)   | 1(2.0)   |             |          |          |          | 1(1.2)   | 1(0.6)   |
| 守山区 |           |          |          | 1(3.8)     |          | 1(2.0)   | 1(2.3)      |          | 1(1.3)   | 1(1.1)   | 1(1.2)   | 2(1.1)   |

\* 昭和区所在 \*\* 中区所在 \*\*\* 熱田区所在

( ) 内%

表11 被調査者の現住所での居住期間

|        | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|--------|----------|----------|----------|
| 1～10年間 | 17(18.5) | 17(20.0) | 34(19.2) |
| 11～20  | 14(15.2) | 18(21.2) | 32(18.1) |
| 21～30  | 23(25.0) | 14(16.5) | 37(20.9) |
| 31～40  | 13(14.1) | 16(18.8) | 29(16.4) |
| 41～    | 22(23.9) | 19(22.4) | 41(23.2) |
| 無回答    | 3(3.3)   | 1(1.2)   | 4(2.3)   |

( )内%

表12 居住地の交通の便

|     | 人数(100%)  |
|-----|-----------|
| 良い  | 173(97.7) |
| 悪い  | 2(1.1)    |
| 無回答 | 2(1.1)    |

( )内%

福祉会館にも来館できるという事情もあるであろう。

#### (6) 交友のための費用

交友に要する費用、これはまた交友に使う費用という面ももつが、それを月平均で質問した結果を表13に示す。ここでは「0円」への回答が28.8%と最も多いものであった。「5000円未満」を起点に1万円きざみの質問に対してそれぞれ10%前後の回答がみられた。

表13 交友のための費用(月平均)

|            | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|------------|----------|----------|----------|
| 0円         | 28(30.4) | 23(27.1) | 51(28.8) |
| 5,000円未満   | 7(7.6)   | 18(21.2) | 25(14.1) |
| ～10,000円未満 | 6(6.5)   | 9(10.6)  | 15(8.5)  |
| ～20,000円未満 | 16(17.4) | 14(16.5) | 30(16.9) |
| ～30,000円未満 | 10(10.9) | 9(10.6)  | 19(10.7) |
| ～50,000円未満 | 12(13.0) | 7(8.2)   | 19(10.7) |
| 50,000円以上  | 11(12.0) | 2(2.4)   | 13(7.3)  |
| 無回答        | 2(2.2)   | 3(3.5)   | 5(2.8)   |

( )内%

## 2 現在の交友関係の実態

### (1) 現在の友人の有無

現在何らかの形で友人と呼べる人がいるか否かを質問した結果を表14に示す。ここでは「いる」とする回答が93.8%と非常に高い割合を占めた。ただし、何らかの形で友人という内容でさえ、いないと答えた老人が6.2

表14 現在の友人の有無

|     | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)   |
|-----|----------|----------|-----------|
| いる  | 84(91.3) | 82(96.5) | 166(93.8) |
| いない | 8(8.7)   | 3(3.5)   | 11(6.2)   |

( )内%

みられた点は容易に看過できない。「老人の生活と意識調査」(1981)では「親しい友人の有無」を調査しており、68.2%が「いる」と回答している。親しさの水準で異なる質問のため同一にみることはできないが、類似の側面の調査結果として付しておきたい。福祉会館への来館者の場合、一般の在宅老人の中では交友関係に広がりのある人たちであろうとは予想される。

なお、次の表15から表25までは表14で「いる」と回答した者に限って、資料を分析した。

### (2) 友人の内訳

現在の友人はどういった人であるのかについて質問した結果を表15に示す。最も多いのは「福祉会館で知りあった」(63.3%)で、男子、女子とも同様の傾向であった。次いで「趣味の同じ人」(40.4%)が選択されたが、これも男子、女子とも同様の結果である。福祉会館がさまざまな趣味的講座を開講しており、また囲碁、将棋をはじめとする幾つかの娯楽設備もあることから、この2つの選択肢への回答は重複してなされている可能性が大きい。いずれにしても、それを利用する人たちに福祉会館が大きな意味を持っていることは疑いをいれない。さらに3番目は「近所の人」(34.9%)という近接の要因によるものであった。これは女子に多い傾向が顕著であった。計で10%台の内容は「職場の仲間」(13.3%)、「親戚の人」(10.2%)、「学友」(15.1%)がある。「職場の仲間」は男子に限っては20%を超える選択がみられたが、その他は男性、女性類似の傾向であった。

表15 友人の内訳

|            | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)   |
|------------|----------|----------|-----------|
| 近所の人       | 23(27.3) | 35(42.7) | 58(34.9)  |
| 幼なじみ       | 5(6.0)   | 6(7.3)   | 11(6.6)   |
| 職場の仲間      | 19(22.6) | 3(3.7)   | 22(13.3)  |
| 親戚の人       | 7(8.3)   | 10(12.2) | 17(10.2)  |
| 文通による友達    | 2(2.3)   | 4(4.9)   | 6(3.6)    |
| 趣味の同じ人     | 34(40.5) | 33(40.2) | 67(40.4)  |
| 戦友         | 4(4.8)   | 0(0.0)   | 4(2.4)    |
| 学友         | 11(13.1) | 14(17.1) | 25(15.1)  |
| 同郷の人       | 4(4.8)   | 8(9.8)   | 12(7.2)   |
| 子どもを通じて    | 0(0.0)   | 1(1.2)   | 1(0.6)    |
| 福祉会館で知りあった | 56(66.7) | 49(59.8) | 105(63.3) |
| その他        | 6(7.1)   | 13(15.9) | 19(11.4)  |

( )内%

### (3) 最も親しい友人の内容

表16では、最も親しい友人という限定のもとに、それがどのような人かをたずねた結果を示した。この結果は先の表15の結果に比べ数値は低くなっているが、その順序はほとんど等しい。即ち「福祉会館で知りあった」(40.4%)、「趣味の同じ人」(25.9%)、「近所の人」

老人の交友関係について

(16.3%)が最も多い所である。親友ということでの特別な内容の傾向性は認められない。「老人の生活と意識調査」(1981)では、親しい友人と知り合ったきっかけについて質問をしている。そこで最も多いものは「近所づきあい」(52.7%)、次いで仕事(29.5%)、「学校時代の友人」(18.8%)、「趣味、学習活動」(15.8%)などがあげられる。この調査では「親戚の人」という選択肢はない。福祉会館来館者であることの偏りは大きい、その点を除けば主な被選択項目は類似していると考えられる。

表16 最も親しい友人の内訳

|            | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|------------|----------|----------|----------|
| 近所の人       | 7(8.3)   | 20(24.1) | 27(16.3) |
| 幼なじみ       | 3(3.6)   | 1(1.2)   | 4(2.4)   |
| 職場の仲間      | 11(13.1) | 2(2.4)   | 13(7.8)  |
| 親戚の人       | 2(2.4)   | 4(4.8)   | 6(3.6)   |
| 文通による友達    | 0(0.0)   | 1(1.2)   | 1(0.6)   |
| 趣味の同じ人     | 24(28.6) | 19(23.2) | 43(25.9) |
| 戦友         | 1(1.2)   | 0(0.0)   | 1(0.6)   |
| 学友         | 3(3.6)   | 8(9.8)   | 11(6.6)  |
| 同郷の人       | 0(0.0)   | 4(4.8)   | 4(2.4)   |
| 子どもを通じて    | 0(0.0)   | 0(0.0)   | 0(0.0)   |
| 福祉会館で知りあった | 34(40.5) | 33(40.2) | 67(40.4) |
| その他        | 4(4.8)   | 6(7.2)   | 10(6.0)  |
| なし         | 4(4.8)   | 1(1.2)   | 5(3.0)   |

( )内%

(4) 最も親しい友人の数、性別

表17には、最も親しい友人と考える人の人数を性別に質問した結果を示す。男子の場合、同性の親しい友人数は「3~4人」の所に最頻値がある。しかし少数から多数にまでさまざまにちらばった結果を示している。男子が異性の親しい友人数をのべた結果は、同性の場合よりも一貫して少ない。最頻値は「2人」の所にあるが、これもちらばりが大きい。女子の場合、同性の親しい友人数は「5~6人」の所に最頻値がある。しかし多人数の個

表17 最も親しい友人の数と性別

|        | 男        |        | 女        |        |
|--------|----------|--------|----------|--------|
|        | 同性       | 異性     | 同性       | 異性     |
| 1人     | 11(13.1) | 5(6.0) | 15(18.3) | 3(3.7) |
| 2人     | 11(13.1) | 7(8.3) | 9(11.0)  |        |
| 3~4人   | 18(21.4) | 5(6.0) | 16(19.5) |        |
| 5~6人   | 13(15.5) | 3(3.6) | 29(35.4) |        |
| 7~8人   | 2(2.4)   | 2(2.4) | 4(4.9)   |        |
| 9~10人  | 9(10.7)  | 3(3.6) | 1(1.2)   | 1(1.2) |
| 11~20人 | 4(4.8)   | 3(3.6) | 2(2.4)   |        |
| 21人以上  | 5(6.0)   | 3(3.6) | 1(1.2)   |        |
| 無回答    | 6(7.1)   |        | 4(4.9)   |        |
| 両性とも選択 | 32(38.1) |        | 3(3.7)   |        |
| 異性のみ選択 | 5(6.0)   |        | 1(1.2)   |        |

( )内%

所への回答は男子に比べ少なく、人数に関する性差は明らかではない。女子が異性の友人を数えあげる事例は極めて少ないものであった。なお、親しい友人が10人以上いると答えた被調査者が相当数あり、回答にあたっての質問の捉え方にバラエティーがあったことが推測される。回答者のうち両性にわたって選択した者は男子で38.1%、女子で3.7%あった。異性のみあげた者は男子で6.0%、女子で1.2%であった。

(5) 最も親しい友人との年齢差

表18には表17で指摘された最も親しい友人との年齢差を質問した結果をまとめた。親しい友人との年齢差は小さい所ほど多く、「±5歳」が37.3%と最も多い。次の「±10歳」(30.1%)をあわせると、10歳以内の年齢に7割弱が入ることとなる。しかし一方で「±30歳」以上への回答も少数ながらみられる。男子は女子に比べると親しい友人との年齢差がやや大きい傾向があるように思われる。

表18 最も親しい友人との年齢差

|     | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|-----|----------|----------|----------|
| ±5歳 | 22(26.2) | 40(48.8) | 62(37.3) |
| ±10 | 23(27.4) | 27(32.9) | 50(30.1) |
| ±15 | 16(19.0) | 6(7.3)   | 22(13.3) |
| ±20 | 6(7.1)   | 1(1.2)   | 7(4.2)   |
| ±25 | 4(4.8)   | 2(2.4)   | 6(3.6)   |
| ±30 | 5(6.0)   | 1(1.2)   | 6(3.6)   |
| ±35 | 0(0.0)   | 0(0.0)   | 0(0.0)   |
| ±40 | 2(2.4)   | 0(0.0)   | 2(1.2)   |
| 不明  | 6(7.1)   | 5(6.1)   | 11(6.6)  |

( )内%

(6) 親しい友人との地理的距離

親しい友人は近所に住んでいるか否かについての質問結果を表19に示す。全体で半数以上は「離れている」と答えている。「近所」は36.1%と1/3強の回答であった。老人にとっての「近所」のさし示す意味内容が不明確なままではあるが、その主観において、友人が「離れている」場合が多いという結果であった。男女差は小さい。

表19 親しい友人との地理的距離

|       | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|-------|----------|----------|----------|
| 近い    | 28(33.3) | 32(39.0) | 60(36.1) |
| 離れている | 50(59.5) | 45(54.9) | 95(57.2) |
| 両方    | 2(2.4)   | 1(1.2)   | 3(1.8)   |
| 無回答   | 4(4.8)   | 4(4.9)   | 8(4.8)   |

( )内%

## (7) 親しい友人との話題

親しいと考えている友人との間で、打ち明け話や重大な相談をするか、という質問に対する回答を表20にまとめた。「する」は38.6%であるのに対し「しない」は57.8%と多い。この傾向には男女差があり、男子の場合「しない」という回答が2/3を占めている一方、女子は「する」、「しない」ほぼ半数ずつとなっている。「老人の生活と意識調査」(1981)によれば悩み、心配事の相談相手としては、配偶者や息子、娘が選ばれることが最も多い。したがってここで「しない」という回答をしたことが、誰に対しても「しない」ということを意味するわけではないのである。

表20 親しい友人と打ち明け話、重大な相談をするか否か

|     | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|-----|----------|----------|----------|
| する  | 24(28.6) | 40(48.8) | 64(38.6) |
| しない | 56(66.7) | 40(48.8) | 96(57.8) |
| 無回答 | 4(4.8)   | 2(2.4)   | 6(3.6)   |

( )内%

## (8) 親しい友人との交際内容

親しい友人との活動内容について、表21にまとめた。全体では「趣味」(42.8%)が最も多い。また「話をする」(38.0%)も多い。ただしこれは男子と女子では後者で多く選ばれるものであった。「出かける、旅行」(19.9%)はそれらに次いで多い。その他の内容は少数の回答にとどまったが、バラエティーに富んでいると思われる。

表21 親しい友人との交際の内容

|         | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|---------|----------|----------|----------|
| 趣味      | 36(42.9) | 35(42.7) | 71(42.8) |
| 食事をする   | 4(4.8)   | 4(4.9)   | 8(4.8)   |
| 話をする    | 24(28.6) | 39(47.6) | 63(38.0) |
| 出かける、旅行 | 18(21.4) | 15(18.3) | 33(19.9) |
| 親戚      | 0(0.0)   | 1(1.2)   | 1(0.6)   |
| 福祉会館    | 3(3.6)   | 1(1.2)   | 4(2.4)   |
| 宗教      | 2(2.4)   | 4(4.9)   | 6(3.6)   |
| 文通      | 0(0.0)   | 2(2.4)   | 2(1.2)   |
| 相談      | 0(0.0)   | 1(1.2)   | 1(0.6)   |
| 老人会     | 0(0.0)   | 1(1.2)   | 1(0.6)   |
| 研究      | 1(1.2)   | 0(0.0)   | 1(0.6)   |
| 訪問      | 1(1.2)   | 0(0.0)   | 1(0.6)   |

( )内%

## (9) 親しい友人と会う頻度

表22には親しい友人と会う頻度についてまとめた。ここでは回答は多様な頻度にわたっている。ただし「毎日

と「週3~4回」といった高頻度を合計すれば42.2%となり、比較的友人と会う頻度は高い場合が多いと判断できよう。

表22 親しい友人と会う頻度

|       | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|-------|----------|----------|----------|
| 毎日    | 16(19.0) | 16(19.5) | 32(19.3) |
| 週3~4回 | 20(23.8) | 18(22.0) | 38(22.9) |
| 週1回程度 | 12(14.3) | 13(15.9) | 25(15.1) |
| 月1~2回 | 11(13.1) | 17(20.7) | 28(16.9) |
| その他   | 19(22.6) | 14(17.1) | 33(19.9) |
| 無回答   | 6(7.1)   | 4(4.9)   | 10(6.0)  |

( )内%

## (10) 親しい友人との交友期間

親しい友人とつきあいはじめてどれ程の期間がすぎたかをたずねた結果は表23に示す。ここでは「1~5年」(28.9%)が最頻値を示しており、次いで「6~10年」(21.1%)があげられる。10年以下をまとめると53.0%となりこれが半数をこえる。一方、30年以上をまとめると20.1%となりほぼ1/5である。老人を対象とした調査にしては交友期間が短いように思われるが、これは主にここでの被調査者の友人を得た契機による結果と考えられよう。即ち、福祉会館に来るようになってきた友人が多いと思われる。この意味でも福祉会館は、老人の交友関係の形成に大きな役割を果しているのである。

表23 親しい友人との交友期間

|          | 男(100%)  | 女(100%)  | 計(100%)  |
|----------|----------|----------|----------|
| 1年未満     | 4(4.8)   | 1(1.2)   | 5(3.0)   |
| 1~5年     | 26(31.0) | 22(26.8) | 48(28.9) |
| 6~10年    | 16(19.0) | 19(23.2) | 35(21.1) |
| 10~20年未満 | 9(10.7)  | 4(4.9)   | 13(7.8)  |
| 20~30年未満 | 4(4.8)   | 11(13.4) | 15(9.0)  |
| 30~50年未満 | 10(11.9) | 7(8.5)   | 17(10.2) |
| 50年以上    | 7(8.3)   | 9(11.0)  | 16(9.6)  |
| 無回答      | 8(9.5)   | 9(11.0)  | 17(10.2) |

( )内%

## (11) 親しい友人となった契機

表24には親しくなった契機を質問した結果を示す。これは表15、16の内容とも多分に重複する意味合いのものである。ここではやはり「福祉会館」(36.1%)が最も多く、次いで「趣味」(20.5%)、「近所」(11.4%)、「仕事」(10.2%)となっている。ここでは選択肢を予め設けることはしなかったが、多様な内容をそこに見出すことができる。少数ながら「軍隊」、「病院」、「宮、寺、教会(などのお参りで)」などは興味ある契機といえよ

老人の交友関係について

表24 親しい友人となった契機

|             | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 趣味          | 20 (23.8) | 14 (17.1) | 34 (20.5) |
| 仕事          | 11 (13.1) | 6 (7.3)   | 17 (10.2) |
| 近所          | 5 (6.0)   | 14 (17.1) | 19 (11.4) |
| 旅行, でかける    | 3 (3.6)   | 2 (2.4)   | 5 (3.0)   |
| 親戚関係        | 1 (1.2)   | 1 (1.2)   | 2 (1.2)   |
| 福祉会館        | 30 (35.7) | 30 (36.6) | 60 (36.1) |
| 学校          | 4 (4.8)   | 6 (7.3)   | 10 (6.0)  |
| 軍隊          | 2 (2.4)   | 0 (0.0)   | 2 (1.2)   |
| 病院          | 2 (2.4)   | 0 (0.0)   | 2 (1.2)   |
| 老人会, サークル活動 | 3 (3.6)   | 6 (7.3)   | 9 (5.4)   |
| 宮, 寺, 教会    | 0 (0.0)   | 4 (4.9)   | 4 (2.4)   |
| 家族をとおして     | 1 (1.2)   | 4 (4.9)   | 5 (3.0)   |
| 会の役員        | 1 (1.2)   | 2 (2.4)   | 3 (1.8)   |
| その他         | 3 (3.6)   | 3 (3.7)   | 6 (3.6)   |
| 無答          | 11 (13.1) | 3 (3.7)   | 14 (8.4)  |

( )内%

う。「学校」を契機とすることが少ないのは本調査結果の特徴である。

(12) 親しい友人以外との交際内容

これまで主に質問してきた親しい友人を除いた, その他の一般的な友人との交際内容についてあらためて質問した結果が表25にまとめたものである。ここでは「趣味」(28.9%)が最も多く, 次いで「会話」(25.9%)があげられる。その他は「旅行, でかける」(12.0%)を除

表25 親しい友人以外との交際の内容

|           | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 趣味        | 22 (26.2) | 26 (31.7) | 48 (28.9) |
| 食事, 飲酒    | 4 (4.8)   | 2 (2.4)   | 6 (3.6)   |
| 会話        | 14 (16.7) | 29 (35.4) | 43 (25.9) |
| 旅行, でかける  | 9 (10.7)  | 11 (13.4) | 20 (12.0) |
| 同窓会       | 1 (1.2)   | 1 (1.2)   | 2 (1.2)   |
| 文通        | 3 (3.6)   | 3 (3.7)   | 6 (3.6)   |
| 訪問        | 2 (2.4)   | 2 (2.4)   | 4 (2.4)   |
| 宮, 寺, 教会  | 2 (2.4)   | 6 (7.3)   | 8 (4.8)   |
| その他       | 4 (4.8)   | 0 (0.0)   | 4 (2.4)   |
| とくになし, 無答 | 35 (41.7) | 20 (24.4) | 55 (33.1) |

( )内%

き少数の回答しかなされないのであった。「とくになし, 無答」が33.1%におよんだのは, 親しい友人のそれ(表21)では0%であった(即ち何らかの形で内容に関する回答が全員からあった)のに比べて大きな差といえよう。

3 過去の交友関係の回顧

質問項目の(28)からは過去の交友関係を10代, 20代~30代, 40代~50代の3時代に分けて回顧してもらうという形をとっている。質問項目(36)まで, はじめに10代を通して尋ね, 次に20代~30代, 40代~50代という

表26 思い出に残る友人の有無(年代別)

|      | 10代の頃      |            | 20-30代の頃   |            | 40-50代の頃   |            |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|      | 男          | 女          | 男          | 女          | 男          | 女          |
| 友人あり | 80 (88.9)  | 65 (76.5)  | 71 (78.9)  | 47 (55.3)  | 71 (78.9)  | 46 (54.1)  |
| 友人なし | 10 (11.1)  | 20 (23.5)  | 19 (21.1)  | 38 (44.7)  | 19 (21.1)  | 39 (45.9)  |
| 計    | 90 (100.0) | 85 (100.0) | 90 (100.0) | 85 (100.0) | 90 (100.0) | 85 (100.0) |

( )内%

表27 最も思い出に残る友人(年代別)

|         | 10代の頃     |           | 20-30代の頃  |           | 40-50代の頃  |           |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|         | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| 近所の人    | 21 (26.3) | 28 (43.1) | 5 (7.0)   | 13 (27.7) | 7 (9.9)   | 29 (63.0) |
| 幼なじみ    | 6 (7.5)   | 10 (15.4) | 0 (0.0)   | 1 (2.1)   | 0 (0.0)   | 1 (2.2)   |
| 職場の仲間   | 16 (20.0) | 4 (6.2)   | 46 (64.8) | 12 (25.5) | 48 (67.6) | 8 (17.4)  |
| 親戚の人    | 0 (0.0)   | 5 (7.7)   | 1 (1.4)   | 2 (4.3)   | 2 (2.8)   | 4 (8.7)   |
| 文通による友達 | 1 (1.3)   | 1 (1.5)   | 1 (1.4)   | 1 (2.1)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   |
| 趣味の同じ人  | 3 (3.8)   | 1 (1.5)   | 7 (9.9)   | 1 (2.1)   | 9 (12.7)  | 1 (2.2)   |
| 戦友      | 2 (2.5)   | 0 (0.0)   | 9 (12.7)  | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 学友      | 37 (46.3) | 51 (78.5) | 4 (5.6)   | 13 (27.7) | 2 (2.8)   | 9 (19.6)  |
| 同郷の人    | 3 (3.8)   | 1 (1.5)   | 3 (4.2)   | 2 (4.3)   | 2 (2.8)   | 1 (2.2)   |
| 子どもを通じて | 1 (1.3)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 2 (4.3)   | 0 (0.0)   | 2 (4.3)   |
| その他     | 3 (3.8)   | 3 (4.6)   | 4 (5.6)   | 2 (4.3)   | 3 (4.2)   | 6 (13.0)  |

( )内%

順に質問した。

(1) 各年代での思い出に残る友人の有無

質問項目(29)では男、女に分けて人数をたずねているが、それをまとめて「友人あり」、「友人なし」に2分して集計した。表26に結果を示す。男女ともに10代は「友人あり」の回答が多いが、20代以降ではそれがやや減少する。とくに女子の場合、20代以降は「友人あり」への回答が50%をやや上回る程度となっている。成人期以降友人の少ない理由として、生活に追われて友人どころではなかったという回答が男女ともに多くみられた。また女子の場合、結婚が友人との交際を大きく制約する要因となっているように思われる。

以下の各項目は表26で「あり」と答えた者の結果に限ってまとめられている。

(2) 各年代での最も思い出に残る友人

各年代での友人はどのような人達であったかについて質問した結果を表27に示す。10代では男子、女子ともに「学友」が最も多い(男子46.3%、女子78.5%)。次いで「近所の人」(男子26.3%、女子43.1%)があげられる。第3にあげられたものでは男子で「職場の仲間」(20.0%)であるのに対して、女子は「幼なじみ」(15.4%)であった。

20代~30代では男子で「職場の仲間」(64.8%)が最も多く選ばれ、次いで「戦友」(12.7%)があげられる。この2項目以外は総て10%に満たない。一方女子は「近所の人」(27.7%)、「学友」(27.7%)、「職場の仲間」(25.5%)の3項目がほぼ等しい割合であげられた。女子ではこの3項目以外は10%未満の選択しかなされていない。40~50代になると、男子では「職場の仲間」(67.6%)が依然多い。一方「戦友」は減少し、「趣味の同じ人」(12.7%)があげられるようになってくる。その他は「近所の人」(9.9%)が10%に近い。女子の場合、「近所の人」(63.0%)の割合はこの年代で大幅に増加する。その他には「職場の仲間」(17.4%)、「学友」(19.6%)が多くあげられている。

総じて男子では「職場の仲間」が友人として占める位置が大きい。第2の要因は「学校」—「戦友」—「趣味の同じ人」という順に移っている。女子は「近所の人」という項目が一貫して多い。成人期以降は「職場の仲間」も一定の選択をみている。また男子に比べ「学友」が40~50代に至っても一定の比重を占め続けているのである。

(3) 各年代での友人の年齢

各年代での友人が同年輩であったか否かについての質問結果を表28に示す。男女ともに10代、20~30代、40~

表28 友人の年齢(年代別)

|        | 10代の頃     |           | 20-30代の頃  |           | 40-50代の頃  |           |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|        | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| 同年輩    | 64 (80.0) | 59 (90.8) | 41 (57.7) | 28 (59.6) | 32 (45.1) | 25 (54.3) |
| 年齢差あり  | 15 (18.8) | 5 (7.7)   | 24 (33.8) | 18 (38.3) | 32 (45.1) | 18 (39.1) |
| 不明・無回答 | 1 (1.3)   | 1 (1.5)   | 6 (8.5)   | 1 (2.1)   | 7 (9.9)   | 3 (6.5)   |

( )内%

表29 友人との地理的距離(年代別)

|        | 10代の頃     |           | 20-30代の頃  |           | 40-50代の頃  |           |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|        | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| 近所     | 63 (78.8) | 50 (76.9) | 23 (32.4) | 29 (61.7) | 25 (35.2) | 31 (67.4) |
| 離れていた  | 15 (18.8) | 14 (21.5) | 39 (54.9) | 13 (27.7) | 37 (52.1) | 11 (23.9) |
| 不明・無回答 | 2 (2.5)   | 1 (1.5)   | 9 (12.7)  | 5 (10.6)  | 9 (12.7)  | 4 (8.7)   |

( )内%

表30 友人と打ち明け話、重大な相談をしたか(年代別)

|        | 10代の頃     |           | 20-30代の頃  |           | 40-50代の頃  |           |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|        | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| はい     | 12 (15.0) | 23 (35.4) | 20 (28.2) | 14 (29.8) | 23 (32.4) | 18 (39.1) |
| いいえ    | 66 (82.5) | 40 (61.5) | 43 (60.6) | 32 (68.9) | 40 (56.3) | 26 (56.5) |
| 不明・無回答 | 2 (2.5)   | 2 (3.1)   | 8 (11.3)  | 1 (2.1)   | 8 (11.3)  | 2 (4.3)   |

( )内%

老人の交友関係について

50代と年代を追って「同年輩」への回答は減少する傾向がみられる。また、男子に比べ女子の方が一貫して「同年輩」の友人をもつことが多い傾向もあわせて示されたのである。

(4) 各年代での友人との地理的距離

表29には各年代での友人が近所に住んでいたか否かを質問した結果を示す。総じて10代と他の2つの年代との間に違いがみられる点が特徴としてあげられる。即ち、10代では男女ともに「近所」(男子78.8%, 女子76.9%)への回答が多いのに対し、20代以降ではその割合が大幅に減少するのである。とくに男子の場合、「離れていた」と回答する者が50%をこえるようにさえなることが示されている。

(5) 各年代での友人との話

各年代での友人に対して、打ち明け話や重大な相談をしたか否かということの話の内容の一側面を質問した結果を表30に示す。この項目では男子と女子はやや異なった結果の様相を示している。男子では相対的に「はい」への回答が少ないが、年代がすすむに伴い少しずつ「は

い」への回答の割合は増加する。女子の場合は一貫して男子より「はい」への回答は多いが、20~30代の所で低下する傾向をみた。40~50代に至ると男子、女子ともに重要な相談相手として友人が選ばれることがあるという結果が30%を越している。この割合は小さいものではない。

(6) 各年代での友人との交際内容

表31には各年代での友人との交際の内容を質問した結果をまとめた。10代では男女ともに「遊び」(男子46.3%, 女子47.7%)が最も多い。また「雑談」(男子12.5%, 女子26.2%)は男女ともに2番目に多くあげられている。後は、男子で「仕事」(10.0%), 女子で「けいこごと」(13.8%), 「勉強」(13.8%)が10%をこえるものとしてあげられる。

20~30代では男女ともに「雑談」(男子26.8%, 女子31.9%)が第一にあげられている。10代で第一にあげられた「遊び」は男子では3番目(16.9%), 女子では7番目(6.4%)に変化している。男子は「仕事」(19.7%), 「飲食」(12.7%)を比較的多いものとしてあげて

表31 友人との交際内容(年代別)

| 10代          |               | 20-30代         |                |                |                | 40-50代       |              |              |              |
|--------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 男            | 女             | 男              | 女              | 男              | 女              | 男            | 女            | 男            | 女            |
| 遊び 37(46.3)  | 遊び 31(47.7)   | 雑談 19(26.8)    | 雑談 15(31.9)    | 仕事 22(31.0)    | 旅行 14(30.4)    | 雑談 11(15.5)  | 雑談 13(28.3)  | 雑談 11(15.5)  | 雑談 13(28.3)  |
| 雑談 10(12.5)  | 雑談 17(26.2)   | 仕事 14(19.7)    | 子どもの話 6(12.8)  | 雑談 9(12.7)     | 雑談 5(10.9)     | 仕事 8(11.3)   | 仕事 5(10.9)   | 仕事 8(11.3)   | 仕事 5(10.9)   |
| 仕事 8(10.0)   | けいこごと 9(13.8) | 遊び 12(16.9)    | 旅行 5(10.6)     | 趣味 9(12.7)     | 相談 5(10.9)     | 相談 4(8.7)    | 相談 5(10.9)   | 相談 4(8.7)    | 相談 5(10.9)   |
| 勉強 6(7.5)    | 勉強 9(13.8)    | 飲食 9(12.7)     | 仕事 5(10.6)     | 飲食 8(11.3)     | 相談 5(10.9)     | 子ども話 4(8.7)  | 子ども話 4(8.7)  | 子ども話 4(8.7)  | 子ども話 4(8.7)  |
| 飲食 4(5.0)    | 映画・観劇 6(9.2)  | 趣味 5(7.0)      | けいこごと 4(8.5)   | 遊び 7(9.9)      | 旅行 4(8.7)      | 訪問 4(8.7)    | 訪問 4(8.7)    | 訪問 4(8.7)    | 訪問 4(8.7)    |
| 映画・観劇 3(3.8) | 一緒に通学 4(6.2)  | 旅行 5(7.0)      | 町内会・婦人会 4(8.5) | 旅行 4(5.6)      | 相談 2(2.8)      | 遊び 2(4.3)    | 遊び 2(4.3)    | 遊び 2(4.3)    | 遊び 2(4.3)    |
| 旅行 3(3.8)    | 訪問 3(4.6)     | 映画・観劇 4(5.6)   | 相談 3(6.4)      | 相談 2(2.8)      | 相談 2(2.8)      | 雑談 2(4.3)    | 雑談 2(4.3)    | 雑談 2(4.3)    | 雑談 2(4.3)    |
| 趣味 3(3.8)    | 飲食 3(4.6)     | 相談 4(5.6)      | 遊び 3(6.4)      | 組合・サークル 2(2.8) | 組合・サークル 2(2.8) | 買い物 1(2.2)   | 買い物 1(2.2)   | 買い物 1(2.2)   | 買い物 1(2.2)   |
| スポーツ 3(3.8)  | 相談 1(1.5)     | 青年団・町内会 3(4.2) | 訪問 3(6.4)      | スポーツ 1(1.4)    | スポーツ 1(1.4)    | 映画・観劇 1(2.2) | 映画・観劇 1(2.2) | 映画・観劇 1(2.2) | 映画・観劇 1(2.2) |
| 青年団 2(2.5)   | 旅行 1(1.5)     | 訪問 3(4.2)      | 趣味 1(2.1)      | 町内会 1(1.4)     | 町内会 1(1.4)     | 趣味 1(2.2)    | 趣味 1(2.2)    | 趣味 1(2.2)    | 趣味 1(2.2)    |
| 相談 2(2.5)    | 趣味 1(1.5)     | 組合・サークル 3(4.2) | 文通 1(2.1)      | 無回答 10(14.1)   | 無回答 10(14.1)   | 飲食 1(2.2)    | 飲食 1(2.2)    | 飲食 1(2.2)    | 飲食 1(2.2)    |
| 文通 2(2.5)    |               | 勉強 2(2.8)      | 飲食 1(2.1)      | 無回答 8(17.4)    | 無回答 8(17.4)    | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    |
| 風呂 1(1.3)    |               | スポーツ 2(2.8)    |                |                |                | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    | 文通 1(2.2)    |
| 戦友 1(1.3)    |               | 戦友 2(2.8)      |                |                |                |              |              |              |              |
| 金銭貸借 1(1.3)  |               | 文通 1(1.4)      |                |                |                |              |              |              |              |
|              |               | 共同生活 1(1.4)    |                |                |                |              |              |              |              |
|              |               | 金銭貸借 1(1.4)    |                |                |                |              |              |              |              |
| 無回答 11(13.8) | 無回答 7(10.8)   | 無回答 12(16.9)   | 無回答 6(12.8)    | 無回答 10(14.1)   | 無回答 8(17.4)    |              |              |              |              |

( )内%

表32 友人と会った頻度(年代別)

|        | 10代      |          | 20-30代   |          | 40-50代   |          |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|        | 男        | 女        | 男        | 女        | 男        | 女        |
| 毎日     | 58(72.5) | 53(81.5) | 44(62.0) | 25(53.2) | 26(36.6) | 18(39.1) |
| 週3-4回  | 5(6.3)   | 1(1.5)   | 6(8.5)   | 3(6.4)   | 8(11.3)  | 5(10.9)  |
| 週1回程度  | 3(3.8)   | 1(1.5)   | 2(2.8)   | 5(10.6)  | 8(11.3)  | 3(6.5)   |
| 月1-2回  | 4(5.0)   | 2(3.1)   | 3(4.2)   | 8(17.0)  | 7(9.9)   | 8(17.4)  |
| その他    | 3(3.8)   | 1(1.5)   | 5(7.0)   | 4(8.5)   | 6(8.5)   | 7(15.2)  |
| 不明・無回答 | 7(8.8)   | 7(10.8)  | 11(15.5) | 2(4.3)   | 16(22.5) | 5(10.9)  |

( )内%

いる。女子では「子どもの話」(12.8%)、「旅行」(10.6%)、「仕事」(10.6%)が比較的多くあげられた項目となっている。40～50代では「仕事」(31.0%)が最も多い。その他は「雑談」(15.5%)、「趣味」(12.7%)、「飲食」(11.3%)が10%以上のものとしてあげられる。女子は「旅行」(30.4%)、「雑談」(28.3%)が多くあげられている。その他としては「仕事」(10.9%)、「相談」(10.9%)の2項目を10%以上のものとしてあげることができる。

(7) 各年代の友人と会った頻度

表32には、各年代の友人と、当時どれ程の頻度で出会ったかをたずねた結果を示す。ここでは男女差は比較

的小さい。ただし年代がすすむにしたがって会う頻度が減少する傾向がみられるのである。

(8) 各年代の友人との現在のつき合い

各年代ごとに想起した友人と現在どのようにつき合っているかを質問した結果を表33に示す。ここでは「つき合っていない」への回答が各年代通じて最も多い。ただし男子、女子ともに一貫して年代がすすむに伴いその割合は減少している(男子58.8%—56.3%—42.3%、女子52.3%—44.7%—32.6%)。「親しくつき合っている」というケースは各年代ともに極めて稀であった。「たまに会う」、「年賀状のみ」といった程度のつき合いになっているケースの方が各年代で多い傾向であった。

表33 友人との現在のつき合いの状況(年代別)

|             | 10代       |           | 20—30代    |           | 40—50代    |           |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|             | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| つき合っていない    | 47 (58.8) | 34 (52.3) | 40 (56.3) | 21 (44.7) | 30 (42.3) | 15 (32.6) |
| 親しくつき合っている  | 0 (0.0)   | 2 (3.1)   | 1 (1.4)   | 3 (6.4)   | 0 (0.0)   | 1 (2.2)   |
| たまに会う       | 5 (6.3)   | 4 (6.2)   | 2 (2.8)   | 6 (12.8)  | 3 (4.2)   | 8 (17.4)  |
| 年に1～2回会う    | 4 (5.0)   | 2 (3.1)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   | 3 (4.2)   | 1 (2.2)   |
| 電話・手紙       | 5 (6.3)   | 2 (3.1)   | 3 (4.2)   | 1 (2.1)   | 3 (4.2)   | 3 (6.5)   |
| 年賀状のみ       | 5 (6.3)   | 4 (6.2)   | 7 (9.9)   | 4 (8.5)   | 7 (9.9)   | 2 (4.3)   |
| クラス会等会をもつ   | 2 (2.5)   | 8 (12.3)  | 1 (1.4)   | 1 (2.1)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   |
| 家族とつき合う     | 1 (1.3)   | 0 (0.0)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| その他(つき合いあり) | 7 (8.8)   | 4 (6.2)   | 8 (11.3)  | 3 (6.4)   | 12 (16.9) | 5 (10.9)  |
| 無回答         | 9 (11.3)  | 5 (7.7)   | 12 (16.9) | 8 (17.0)  | 18 (25.4) | 11 (23.9) |

( )内%

表34 友人とのつき合いの変化の契機(年代別)

|               | 10代       |           | 20—30代    |           | 40—50代    |           |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|               | 男         | 女         | 男         | 女         | 男         | 女         |
| 学校を卒業して       | 1 (1.3)   | 1 (1.5)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 就職            | 5 (6.3)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 転・退職          | 4 (5.0)   | 0 (0.0)   | 14 (19.7) | 4 (8.5)   | 11 (15.5) | 3 (6.5)   |
| 結婚            | 1 (1.3)   | 16 (24.6) | 1 (1.4)   | 3 (6.4)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 出産・育児         | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 2 (4.3)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 引越・遠く離れたので    | 27 (33.8) | 26 (40.0) | 14 (19.7) | 14 (29.8) | 10 (14.1) | 12 (26.1) |
| 身分・社会的地位の違い   | 1 (1.3)   | 1 (1.5)   | 2 (2.8)   | 0 (0.0)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   |
| 仕事が忙しくなって     | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 1 (1.4)   | 0 (0.0)   |
| 別の友人ができて      | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 1 (1.4)   | 1 (2.2)   |
| 戦争            | 10 (12.5) | 4 (6.2)   | 11 (15.5) | 8 (17.0)  | 2 (2.8)   | 2 (4.3)   |
| 消息不明・死亡       | 31 (38.8) | 7 (10.8)  | 21 (29.6) | 5 (10.6)  | 19 (26.8) | 7 (15.2)  |
| 意見の違い         | 2 (2.5)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   |
| 何となくおっくうひびかって | 1 (1.3)   | 3 (4.6)   | 3 (4.2)   | 0 (0.0)   | 4 (5.6)   | 1 (2.2)   |
| その他           | 0 (0.0)   | 0 (0.0)   | 2 (2.8)   | 2 (4.3)   | 1 (1.4)   | 1 (2.2)   |
| 無回答           | 7 (8.8)   | 7 (10.8)  | 14 (19.7) | 9 (19.1)  | 21 (29.6) | 19 (41.3) |

( )内%

なお、男子と女子とでは女子で「つき合っていない」という回答がやや少ない傾向がみられたことをあわせて指摘しておく。

(9) 各年代での友人とのつき合いの変化の契機

各年代での友人とのつき合いの変化が生じた理由、契機をまとめた結果は表34に示す。10代の友人では、男子で「消息不明、死亡」(38.8%)、「引越、遠く離れたので」(33.8%)が多くあげられる。また「戦争」(12.5%)も比較的多くあげられた。女子は「引越、遠く離れたので」(40.0%)が多く、次いで「結婚」(24.6%)があげられた。「消息不明、死亡」(10.8%)も比較的多い。

20~30代では男子で「転、退職」(19.7%)、「引越、遠く離れたので」(19.7%)、「戦争」(15.5%)、「消息不明、死亡」(29.6%)が多くあげられている。女子では「引越、遠く離れたので」(29.8%)、「戦争」(17.0%)、「消息不明、死亡」(10.6%)などの理由が主なものとなっている。40~50代でも、20~30代と類似した傾向がみられた。ただし無回答(その多くは変化がないためと考えられる)の割合がここでは増大している。

総じて「消息不明、死亡」は多くあげられているが、その他「転、退職」、「結婚」、「引越、遠く離れたので」といった距離的要因が多く出される傾向も見出された。

4 交友関係への満足度

(1) 昔の友人関係への満足度

表35には、若い頃の友人関係を思い返してみても、満足一不満足の次元でそれをどう評価するかについての結果を示す。質問は5段階の評定を求める形式である。ここでは男子、女子ともにポジティブな方向の評価が多い。即ち、「非常に満足できる」、「かなり満足できる」の2項目への応答をまとめると男子で57.6%、女子で67.1%、全体で62.1%となる。一方不満の方向のものは男子で14.1%、女子で4.7%、全体で9.5%と、割合は小さいものであった。

(2) 昔の友人関係への満足、不満足の原因

昔の友人関係がなぜ満足だったのか、または不満足だったのか、その理由を表36にまとめた。「満足な点」としては、全体で、「心を許したつきあい」ができた(15.3%)、「遊び、旅行、趣味、おけいこなど」をした(14.7%)、「仲よくできた、話があった」(11.3%)といった

表35 昔の友人関係への満足度

|           | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 非常に満足できる  | 22 (23.9) | 26 (30.6) | 48 (27.1) |
| かなり満足できる  | 31 (33.7) | 31 (36.5) | 62 (35.0) |
| どちらともいえない | 20 (21.7) | 20 (23.5) | 40 (22.6) |
| あまり満足できない | 12 (13.0) | 4 (4.7)   | 16 (9.0)  |
| 非常に不満である  | 1 (1.1)   | 0 (0.0)   | 1 (0.5)   |
| 無 答       | 6 (6.5)   | 4 (4.7)   | 10 (5.6)  |

( ) 内%

表36 昔の友人関係への満足・不満足の原因

|       | 男(100%)             | 女(100%)   | 計(100%)   |           |
|-------|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| 満足な点  | 心を許したつきあい           | 13 (14.1) | 14 (16.5) | 27 (15.3) |
|       | 親切にし、助けあう           | 5 (5.4)   | 4 (4.7)   | 9 (5.1)   |
|       | 仲よくできた、話が合った        | 7 (7.6)   | 13 (15.3) | 20 (11.3) |
|       | 遊び、旅行、趣味、おけいこなど     | 14 (15.2) | 12 (14.1) | 26 (14.7) |
|       | いい人ばかりだった           | 1 (1.1)   | 1 (1.2)   | 2 (1.1)   |
|       | たのしかった、それなりによかった    | 6 (6.5)   | 7 (8.2)   | 13 (7.1)  |
|       | 今でも心が通じている、つきあえる    | 3 (3.3)   | 3 (3.5)   | 6 (3.4)   |
| 不満な点  | 子供なりのつきあいができた       | 0 (0.0)   | 3 (3.5)   | 3 (1.7)   |
|       | 心をわった深いつきあいができなかった  | 4 (4.3)   | 3 (3.5)   | 7 (3.8)   |
|       | 教育・環境がちがった          | 1 (1.1)   | 0 (0.0)   | 1 (0.5)   |
|       | 今は会えない、長く続かなかった     | 2 (2.2)   | 1 (1.2)   | 3 (1.7)   |
| その他   | 時代・家庭の事情、生活に追われて    | 10 (10.9) | 9 (10.6)  | 19 (10.7) |
|       | 友人がいなかった、ほしいと思わなかった | 1 (1.1)   | 3 (3.5)   | 4 (2.3)   |
|       | とくに不満もない            | 6 (6.5)   | 6 (7.1)   | 12 (6.8)  |
|       | その他                 | 6 (6.5)   | 2 (2.4)   | 8 (4.5)   |
|       | 無答、忘れた、わからない        | 10 (10.9) | 7 (8.2)   | 17 (9.6)  |
| 無関連な答 | 11 (12.0)           | 6 (7.1)   | 17 (9.6)  |           |

( ) 内%

事柄が、比較的多くあげられた。「不満足な点」としては、「時代、家庭の事情、生活に追われて」(10.7%)という事項への回答が比較的多い。対人的な理由よりはその外側にある、交友を十分に許さない状況に対する不満が多い結果であった。ここには時代が多分に反映していると思われる。

### (3) 現在の友人関係への満足度

現在の友人関係への満足度を5段階で評定した結果を表37に示す。全体では「非常に満足できる」(45.7%)、「かなり満足できる」(27.1%)の2段階への回答が多い。一方「あまり満足できない」(7.9%)、「非常に不満である」(2.8%)といった段階への回答は少ない。満足の方向にある回答は合計で72.8%、不満足の方向にある回答は10.7%である。

昔の友人関係への満足度結果(表35)と比べた場合、満足の方向への回答が多い傾向がある。とくに「非常に

表37 現在の友人関係への満足度

|           | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 非常に満足できる  | 34 (37.0) | 47 (55.3) | 81 (45.7) |
| かなり満足できる  | 26 (28.3) | 22 (25.9) | 48 (27.1) |
| どちらともいえない | 19 (20.7) | 6 (7.1)   | 25 (14.1) |
| あまり満足できない | 8 (8.7)   | 6 (7.1)   | 14 (7.9)  |
| 非常に不満である  | 3 (3.2)   | 2 (2.4)   | 5 (2.8)   |
| 無 答       | 2 (2.2)   | 2 (2.4)   | 4 (2.3)   |

( )内%

満足できる」への回答は多い。しかし一方、不満足の方向にある回答は減っていない。

### (4) 現在の友人関係への満足、不満足の理由

現在の友人関係が満足、不満足と答えたその理由について、表38にまとめた。「満足な点」としては、「話し、遊び、旅行、趣味など」(22.0%)と一緒にできること、「楽しい、ありがたい、気持ちがなごむ」(16.9%)といった事柄が比較的多くあげられている。女子では「心を許した親密なつき合い」(14.1%)ができることも比較的多くあげられている。「不満足な点」は、「うわべだけ、親密になれない」、「話があわない、信用できない」といった、表面的な対人関係しか持つことができず、時には不信を伴った理由がやや目立つ。外的な要因はむしろ少ない。

### (5) 現在の友人関係についての期待

現在つき合っている友人と今後どのようなつき合いをしてゆきたいかという点についての結果は表39に示す。「今まで通り(今が良いので)」(36.7%)が最も多い。今まで通りという含みを持った項目(表中の上から4項目)を合すると51.4%がそう答えている。「趣味、旅行、遊び、話しなど」(14.1%)をさらにしたいというものは比較的多い。女子については「仲よくやっていきたい、たのしく」(11.8%)も比較的多い。総じてさらに積極的に友人関係を展開発展させてゆこうとする具体的な回答はみることができなかった。

表38 現在の友人関係への満足、不満足の理由

|                  |                   | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|------------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 満<br>足<br>な<br>点 | 心を許した親密なつき合い      | 5 (5.4)   | 12 (14.1) | 17 (9.6)  |
|                  | 親切にしあい、助けあう       | 4 (4.3)   | 3 (3.5)   | 7 (4.0)   |
|                  | 気があう、話があう、仲よくできる  | 4 (4.3)   | 7 (8.2)   | 11 (6.2)  |
|                  | 話し、遊び、旅行、趣味など     | 18 (19.6) | 21 (24.7) | 39 (22.0) |
|                  | いい人、おもしろい人ばかり     | 4 (4.3)   | 5 (5.9)   | 9 (5.1)   |
|                  | 楽しい、ありがたい、気持ちがなごむ | 11 (12.0) | 19 (22.4) | 30 (16.9) |
|                  | 昔の友がつづいている        | 3 (3.3)   | 2 (2.4)   | 5 (2.8)   |
| 不<br>満<br>な<br>点 | 無理をいわない、わずらわしくない  | 3 (3.3)   | 2 (2.4)   | 5 (2.8)   |
|                  | うわべだけ、親密になれない     | 8 (8.7)   | 4 (4.7)   | 12 (6.8)  |
|                  | 話があわない、信用できない     | 3 (3.3)   | 1 (1.2)   | 4 (2.3)   |
|                  | 親友、友人が亡くなった。      | 3 (3.3)   | 1 (1.2)   | 4 (2.3)   |
|                  | でかけにくい、機会がない      | 3 (3.3)   | 1 (1.2)   | 4 (2.3)   |
| そ<br>の<br>他      | つきあいがいい           | 3 (3.3)   | 6 (7.1)   | 9 (5.1)   |
|                  | 不満はない             | 4 (4.3)   | 2 (2.4)   | 6 (3.4)   |
|                  | その他               | 2 (2.2)   | 1 (1.2)   | 3 (1.7)   |
|                  | 無答、わからない          | 11 (12.0) | 1 (1.2)   | 12 (6.8)  |
|                  | 無関連な答             | 10 (10.9) | 6 (7.1)   | 16 (9.0)  |

( )内%

表39 現在の友人との今後のつき合いへの希望

|                    | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| 今まで通り(良い)          | 32 (34.8) | 33 (38.8) | 65 (36.7) |
| 今まで通り(仕方がない)       | 6 (6.5)   | 3 (3.5)   | 9 (5.1)   |
| 今まで通り, 長く続けていきたい   | 5 (5.4)   | 6 (7.1)   | 11 (6.2)  |
| 大事にしていきたい          | 1 (1.1)   | 5 (5.9)   | 6 (3.4)   |
| 親密なつきあいを, 助けあって    | 2 (2.2)   | 7 (8.2)   | 9 (5.1)   |
| 趣味, 旅行, 遊び, 話など    | 17 (18.5) | 8 (9.4)   | 25 (14.1) |
| 仲よくやっていきたい, たのしく   | 5 (5.4)   | 10 (11.8) | 15 (8.5)  |
| 気もちがあう人と, 環境の似た人と  | 2 (2.2)   | 1 (1.2)   | 3 (1.7)   |
| 世間つき合い程度, わずらわしくなく | 4 (4.3)   | 3 (3.5)   | 7 (4.0)   |
| 健康で, 長生きして         | 4 (4.3)   | 4 (4.7)   | 8 (4.5)   |
| 先のことはわからない, 希望なし   | 1 (1.1)   | 3 (3.5)   | 4 (2.3)   |
| 友人はいらない, 自分が頼り     | 2 (2.2)   | 3 (3.5)   | 5 (2.8)   |
| うそ, 悪口をいわない        | 0 (0.0)   | 1 (1.2)   | 1 (0.6)   |
| 無答, 特になし           | 11 (12.0) | 6 (7.1)   | 17 (9.6)  |
| 無関連な答              | 6 (6.5)   | 0 (0.0)   | 6 (3.4)   |

( ) 内%

## 5 友人関係の意味

最後に老人の人生経験の中で集約されてきた友人関係の意味について, 3つの領域で質問した。

## (1) 老人における友人の意味

老人が友人を持つことの意味について質問した結果を表40に示す。ここでは「話が合う」(28.2%), 「楽しい時をすごせる」(24.3%), 「助け合い, 相談できる」(10.2%)といった回答が比較的多い。全体的には友人の持つ積極的意味(「知識がひろがる」, 「グループ活動ができる」など)があげられることは少なく, 慰安的な意

味を持つものが非常に多い。このことは「老人の生活と意識調査」(1982)で, 老人にとって大切なものとして, 「友人・仲間」を第一に選んだものは少なく(1.7%), むしろ第二に選ばれる(16.5%)ことが多いという結果にも関連する事柄であろう。表中下部の「気が紛れる」, 「たいくつしのぎ」といった内容も, 表現こそ違え, 慰安的機能をそこに見出しているという点では「話が合う」, 「楽しい時をすごせる」と類似の事柄である。

## (2) 友人を持つことの人生における意味

友人を持つことは人生においてどんな意味があるのか

表40 老人における友人の意味

|               | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| 話が合う          | 25 (27.2) | 25 (29.4) | 50 (28.2) |
| 楽しい時をすごせる     | 25 (27.2) | 18 (21.2) | 43 (24.3) |
| 助け合い, 相談できる   | 7 (7.6)   | 11 (12.9) | 18 (10.2) |
| 気ははれる, 心がやすまる | 3 (3.3)   | 4 (4.7)   | 7 (4.0)   |
| 孤独でない         | 3 (3.3)   | 4 (4.7)   | 7 (4.0)   |
| 知識がひろがる       | 4 (4.3)   | 2 (2.4)   | 6 (3.4)   |
| ふけこまない        | 2 (2.2)   | 1 (1.2)   | 3 (1.7)   |
| 健康によい         | 1 (1.1)   | 1 (1.2)   | 2 (1.1)   |
| 生きがいとなる       | 1 (1.1)   | 0 (0.0)   | 1 (0.6)   |
| グループ活動ができる    | 0 (0.0)   | 1 (1.2)   | 1 (0.6)   |
| 気が紛れる         | 2 (2.2)   | 2 (2.4)   | 4 (2.3)   |
| たいくつしのぎ       | 3 (3.3)   | 6 (7.1)   | 9 (5.1)   |
| 良い所なし, 不用     | 3 (3.3)   | 2 (2.4)   | 5 (2.8)   |
| 無回答, 分らない     | 18 (19.6) | 8 (9.4)   | 26 (14.7) |
| 無関連な回答        | 2 (2.2)   | 4 (4.7)   | 6 (3.4)   |

( ) 内%

について質問した結果を表41に示す。全体では「楽しい」(19.8%)、「知識・世間が広がる」(11.3%)が比較的多くあげられた。男子では「孤独でなくなる」(9.8%)、女子では「話ができる」(10.6%)、「相談できる、助け合える」(11.8%)が比較的多くあげられている。その

他数は少ないながら、多様な意味があげられた。その多くは友人の積極的な側面に言及したものである。男子では「無回答、分らない」(20.7%)が1/5程度の割合を占めた。これは先の表40の結果と類似の傾向である。この理由については明確な解釈はできないが、友人関係

表41 友人を持つことの人生における意味

|              | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 楽しい          | 15 (16.3) | 20 (23.5) | 35 (19.8) |
| 知識・世間が広がる    | 10 (10.9) | 10 (11.8) | 20 (11.3) |
| 話ができる        | 7 ( 7.6)  | 9 (10.6)  | 16 ( 9.0) |
| 孤独でなくなる      | 9 ( 9.8)  | 6 ( 7.1)  | 15 ( 8.5) |
| 相談できる、助け合える  | 2 ( 2.2)  | 10 (11.8) | 12 ( 6.8) |
| たよりになる、励まし合う | 5 ( 5.4)  | 6 ( 7.1)  | 11 ( 6.2) |
| 幸福につながる      | 6 ( 6.5)  | 3 ( 3.5)  | 9 ( 5.1)  |
| 生きがいとなる      | 5 ( 5.4)  | 1 ( 1.2)  | 6 ( 3.4)  |
| ゆとり、うるおいを生む  | 1 ( 1.1)  | 4 ( 4.7)  | 5 ( 2.8)  |
| 心の支え、やすらぎ    | 0 ( 0.0)  | 4 ( 4.7)  | 4 ( 2.3)  |
| 人間性の広がり      | 1 ( 1.1)  | 2 ( 2.4)  | 3 ( 1.7)  |
| 実質的な利益がある    | 2 ( 2.2)  | 0 ( 0.0)  | 2 ( 1.1)  |
| 生きるためには他者が必要 | 2 ( 2.2)  | 0 ( 0.0)  | 2 ( 1.1)  |
| 健康に良い        | 0 ( 0.0)  | 1 ( 1.2)  | 1 ( 0.6)  |
| 気ばらしになる      | 0 ( 0.0)  | 1 ( 1.2)  | 1 ( 0.6)  |
| 友人があることは良い   | 8 ( 8.7)  | 8 ( 9.4)  | 16 ( 9.0) |
| 友人不信         | 2 ( 2.2)  | 1 ( 1.2)  | 3 ( 1.7)  |
| 友人不要、無意味     | 3 ( 3.3)  | 4 ( 4.7)  | 7 ( 4.0)  |
| 無回答、分らない     | 19 (20.7) | 7 ( 8.2)  | 26 (14.7) |
| 無関連な回答       | 4 ( 4.3)  | 1 ( 1.2)  | 5 ( 2.8)  |

( ) 内%

表42 現代の若者の交友関係への意見

|                | 男(100%)   | 女(100%)   | 計(100%)   |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
| しっかりしている、積極的だ  | 3 ( 3.3)  | 0 ( 0.0)  | 3 ( 1.7)  |
| 楽しそう、明るい       | 1 ( 1.1)  | 2 ( 2.4)  | 3 ( 1.7)  |
| 単なる肯定          | 2 ( 2.2)  | 4 ( 4.7)  | 6 ( 3.4)  |
| 思いやりを欠く、利己的    | 5 ( 5.4)  | 3 ( 3.5)  | 8 ( 4.5)  |
| 不道德的、つつしみが無い   | 4 ( 4.3)  | 4 ( 4.7)  | 8 ( 4.5)  |
| 派手だ            | 1 ( 1.1)  | 5 ( 5.9)  | 6 ( 3.4)  |
| 人間関係希薄         | 4 ( 4.3)  | 3 ( 3.5)  | 7 ( 4.0)  |
| 義理、礼儀を欠く       | 1 ( 1.1)  | 3 ( 3.5)  | 4 ( 2.3)  |
| つき合いが下手        | 2 ( 2.2)  | 0 ( 0.0)  | 2 ( 1.1)  |
| 単なる否定          | 2 ( 2.2)  | 2 ( 2.4)  | 4 ( 2.3)  |
| 時代の流れだ、分らぬが認める | 8 ( 8.7)  | 15 (17.6) | 23 (13.0) |
| 友人選択への忠告       | 3 ( 3.3)  | 7 ( 8.2)  | 10 ( 5.6) |
| とくになし          | 13 (14.1) | 12 (14.1) | 25 (14.1) |
| 分らない、無回答       | 20 (21.7) | 16 (18.8) | 36 (20.3) |
| 無関連の回答         | 23 (25.0) | 11 (12.9) | 34 (19.2) |

( ) 内%

の意味に関連した質問では、男子において要約的な回答が出にくいという一貫した傾向のあることは指摘しておきたい。

### (3) 現代の若者の交友関係への意見

現代の若者の交友関係に対する意見を求めた結果を表42に示す。表中下方、「とくになし」以下の3項目への回答が多く(合計53.6%)その他の項目への実際の回答数は少ない。各カテゴリーの回答数はばらつきが小さく、多項目にわたっている。この中で肯定的に評価していると思われる表中の上3項目は合計6.8%と少ない。一方否定的に評価していると思われる7項目(「思いやりを欠く、利己的」から「単なる否定」まで)は合計22.1%と多い。また「時代の流れだ、分らぬが認める」(13.0%)も一定数の回答をみている。現代の若者の友人関係を、視点はさまざまに異なるが、老人は問題の多いものとして捉えるような結果であった。

## 討 論

ここでは老人の交友関係の実態を、調査した個々の項目に従って考察を行ってきた。最後に、それらの結果を概観して、いくつかの点を指摘しておくことにしよう。

(1) 今回の調査は、老人福祉会館へ来館する老人について面接調査したものである。大学生が調査者であったが、この若者と老人との調査場面における関係は、極めて良好で、被調査者は面接されることを楽しみにしていると思われる程であった。被調査者は、福祉会館へ来館可能な程、心身ともに健康である。従って、老人一般の代表というには偏りがあるという指摘もあろう。とはいえ、こうした人たちがどのような交友関係をもっているかは知るべき重要な事柄なのである。

(2) 友人があるという回答は多い。9割以上の人々が友人を持ち、交際しているのである。交際も多様であるが比較的多いのは、趣味を共にしたり、いろいろな話をしたり、町へ出かけたり、旅行へ行ったり、という項目である。お互いが共に何かをして過す、というのが老人の交友関係の基本に流れている、と思われる。

(3) 友人の内訳は、この被調査者の特徴でもあるが、福祉会館の活動を通じて知り合ったというケースが他を圧しているのである。その他には、趣味を同じくしたり、近所であったり、あるいは職場の友人関係であったりするのが見受けられる。老人が交友関係をつくる契機となっている福祉会館の意義は大きいと言わねばならないであろう。

(4) 老人の交友関係は、年齢と性別で多様になっているが、多くの人々が年齢の比較的近い同性をあげているのである。特に、女子は、友人の年齢が本人に近いという

傾向が読みとれる。しかも、男子に比べて親しい友人に打ち明け話をしてしたり、重大な相談をする割合が高いようである。特に興味深いのは、1週間に1回以上、会う頻度である。過半数を越える老人が、親しい友人と毎週会っているのである。週に3~4回以上会う人は、4割以上を占める。これは、先の交友関係における「共にすごす」という特徴の強いことを明らかにしている。

(5) 親しい友人との交際期間は、10年未満が5割以上を占めている。とはいっても、30年以上にもわたって交際してきている人も2割程はみられる。前者の中には、既に述べた福祉会館への訪問を契機にしてつくられた友人も可成りみられるであろう。

(6) 被調査者に、10代、20~30代、40~50代の友人を回顧した資料は、記憶を辿りながらではあるが興味深い資料を提供していると思われる。男子も女子も、10代は、学友と近所の人々が友人のほとんどを占めることになる。しかし、20~30代に入ると、男子は職場の仲間が筆頭になり、40~50代でもその傾向は変わらない。それに対して、女子は近所の人と学友と職場の人が均衡し合っている。そして、40~50代になると、圧倒的に近所の人々が友人になっていくのである。老年期に入った現在では、男子も女子も福祉会館で知り合った人も含めて近所の人、身近な人が友人のほとんどである。こうしてみると、人の交友関係は、人がその年代で所属する社会的状況、場面に主として規定されているのが分るのであろう。これをあえて図式に示せば、男子の交友関係は、学校・近所の友だち→{ 職場の友だち }→近所・身近な友だち、と変化していくのに対して、女子の場合は、学校・近所の友だち→{ 学校・近所・職場の友だち→近所の友だち }→近所・身近な友だちと変わっていくと思われる。{ }は、10代、60代の中間の20~50代を含むものとする。

(7) 友人との交際の内容の回顧をみると、男子も女子も10代では、遊びと雑談をあげている。青年期には、特に関心が深いと思われる悩みごとの相談や打ち明け話に対しては回答が少ない。過ぎ去った青年期の友人の位置づけが、年を経るに従って異なって受けとめられるようになるのではないかと推定される。

(8) 男子も女子も老人は現在の友人関係にかなり満足しているように思われる。特に女子は、8割以上の人々が現在の交友関係を肯定的に受容している。これは、今後の交際への期待を調べると、さらに現在の関係をどう発展させたいか、というような構えの少ないことでも肯ずけるのである。これは、老人にとって、友人がいかなる意味をもつか、という友人というものの見方とも深い関わりがある。それを調べた項目では、男子も女子も、無

答を除けば、話が合い、楽しい時をすごせる仲間が友人として最も選ばれる項目なのである。これをみても、老年期の友人は「共に在る」ことを前提とした関係ではないかと推定されるであろう。

(9) 最後に、現代の若者の交友関係については、利己的で、つつしみがなく、人間関係が希薄であるというような批判的意見もみられたが、全体としては、分らない、特に意見が無いというのが今回の結論のようであった。

## 文 献

- 浅野 仁編者 1981 老人のためのグループワーク  
全国社会福祉協議会  
北村晴朗・西野美佐子 1980 在宅老人の生活実態調査：余暇における楽しみを中心として 東北福祉大学紀要, 4, 1-19.  
内閣総理大臣官房老人対策室編 1982 老人の生活と意識：国際比較調査結果報告書 大蔵省印刷局  
総理府編 1979 高齢者問題の現状—廻り来る高齢化社会 大蔵省印刷局

(1982年7月31日 受稿)

## 資 料

- I—(1) あなたの氏名をお教え下さい。  
(2) あなたの性別は。  
(3) あなたは何年に生まれましたか。  
(4) あなたと一緒に住んでいる家族をお聞かせ下さい。  
(5) 現在、仕事をお持ちですか。  
a. はい b. いいえ  
(6) 仕事をお持ちの方は、その内容を下から選んで下さい。  
a. 農林水産業 b. 自営の商工業  
c. 事務系の勤め人 d. 作業系の勤め人  
e. 専門職、自由業 f. 管理職  
g. その他  
(7) 今まで主にどのような仕事をしていましたか。  
次の中から選んで下さい。  
(6)と同じ選択肢  
(8) その仕事は何年程前に引退されましたか。  
(9) あなたが最後にいらした学校は何ですか。  
a. 小学校 b. 高等小学校 c. 旧制中学校, 商(工)業学校, 高等女学校  
d. 大学, 旧制高等学校, 専門学校  
e. その他  
(10) 兵役の経験はありますか。わかれば期間も教えて下さい。  
(11) 現在、何区に住んでいますか。  
(12) いつごろから今の所に住んでいますか。  
(13) 現在、他所へ出かけるのに、交通の便は良いですか。  
(14) 友達とのつき合いで、月に平均してどれ位の費用がいらいますか。
- II 現在の友達についてうかがいます。  
(15) 今、何らかの形でつき合っている友達はいますか。  
(16) いると答えた方は、合計すると何人になりますか。  
a. 男性( )人 b. 女性( )人  
(17) その友達はどんな方々ですか。あてはまるものを下から総て選んで下さい。  
a. 近所の人 b. 幼なじみ c. 職場の人  
d. 親戚の人 e. 文通している人  
f. 趣味の同じ人 g. 戦友 h. 学友  
i. 同郷の人 j. 子どもを通じて  
k. 福祉会館で知り合った人 l. その他  
(18) あなたが一番親しいと感じる友達、仲間は、(17)で選んだもののうちの方々ですか。  
(19) 一番親しいと感じる友達は何人くらいですか。  
a. 男性( )人 b. 女性( )人  
(20) その方々は何歳くらいですか。  
(21) その友達は近所に住んでいますか。  
a. 近所 b. 離れている( )  
(22) その友達と打ち明け話をしたり、重大な相談にのったりしますか。  
(23) その友達とはどのような話や活動をしますか。  
(24) その友達と会う頻度は、  
a. 毎日 b. 週3~4回 c. 週1回程度  
d. 月1~2回 e. その他  
(25) その方々とは何年くらいのつき合いですか。  
a. 1カ月 b. 半年 c. 1年  
d. ( )年  
(26) その方々とはどんなきっかけで合うようになりましたか。

- (27) 一番親しい友達以外の仲間とは、どのような話や活動をしますか。
- Ⅲ つぎに、あなたの昔の友達について、10代、20代～30代、40代～50代と年を区切っておたずねします。
- (28) あなたが(10代、20代～30代、40代～50代)の頃の友達で、一番思い出に残っている方々は次のうちのどんな方々ですか。
- (17)と同じ選択肢
- (29) 何人くらいの友達でしたか\*  
a. 男性( )人 b. 女性( )人
- \* (29)～(36)は、10代、20～30代、40～50代の3通りの質問を行なう。
- (30) その方々の当時の年齢はどうでしたか。  
a. 同年輩 b. 様々な年齢(具体的に )
- (31) その方々は当時どこに住んでいましたか。  
a. 近所 b. 離れていた( )
- (32) その方々とは、うち明け話をしたり、重大な相談にのったりしましたか。
- (33) その方々とは、当時、どんな話や活動をしましたか。
- (34) その方々とは、当時どれくらい会っていましたか。
- (24)と同じ選択肢
- (35) 今、その方々とのつき合いはどうなっていますか。
- (36) (35)でうかがったような状態になったきっかけは何ですか。

Ⅵ つづいて友達とのつき合いの意味や友達関係についての全般的な意見をうかがいます。

- (37) 若い頃の友達とのつき合いは、今思い返してみて満足のできるものでしたか。  
a. 非常に満足できる b. かなり満足できる  
c. どちらともいえない d. あまり満足できない e. 非常に不満である
- (38) 満足と答えた方は、とくにどんな点が満足でしたか。
- (39) どちらともいえない、または不満と答えた方は、どういう点で満足できないのですか。
- (40) 現在の友達とのつき合いは満足できるものですか。
- (37)と同じ選択肢
- (41) 満足と答えた方は、とくにどんな点に満足していますか。
- (42) どちらともいえない、または不満と答えた方は、どういう点で満足できないのですか。
- (43) これからは友達とどんな内容のつき合いをしたいと思いますか。
- (44) 年寄りの方々が友達を持っていることは、どんな意味、どんな良い点があると考えますか。
- (45) 友達を持つことはどんな意味を持つと考えますか。
- (46) 現在の若い人々の友人関係、つき合い方についての意見をお聞かせ下さい。

#### <付 記>

本研究は、昭和54年度名古屋大学教育心理学教室の授業である教育心理学実験演習Ⅰ(調査)(担当：梶田正巳・杉江修治)の一環として実施されたものである。面接調査は、名古屋大学教育学部教育心理学科学生、井元哲也、石田敬子、伊東繁和、小林洋子、斉藤和志、鈴木靖恵、竹岡麻美子、都築健永、都築誉史、戸塚真理、外波山昇志、日置俊哉、平居郁子、藤田恵美子、松永夕香里、三浦宏太、村瀬多美子、(故)渡辺誠の諸君が面接

調査のフィールド・トレーニングとして行なったものである。著者らの全般的印象では、およそ孫にも相当する学生諸君と被面接者の老人とはたいへん和かに面談を進めたように思われる。本資料は、老人の交友関係に対する認識を深める上で学問的にも寄与をしようと考えるので、著者らが手を加え論文として公刊するものである。記して、被面接者の方々並びに名古屋市熱田区福祉会館館長後藤潤隆氏、同前津福祉会館館長寺尾登氏、同八事福祉会館館長浜渕正志氏に深く感謝する次第である。

## A STUDY ON THE FRIENDSHIP AMONG THE AGED

Masami KAJITA and Shuji SUGIE

Seniors older than 65 years old were interviewed when they visited the Welfare Centers for the Aged in Nagoya. They were asked (1) to recall the past friendship in the twenties, thirties, forties, and fifties (generation) and (2) to disclose the present friendship in the sixties or seventies.

Main results were as follows.

- (1) The Welfare Center for the Aged has a role significantly contributed to make friends among the aged.
- (2) Motives and moments of making friends are differentiated by both the generation and the sex of the aged.